



▲第98回二科展 広島巡回展 オープニングテープカット



▲ポスター・チラシ

第98回 二科展 巡回 [広島展] 開催

例年、新春の一月開催が恒例となっている二科広島展、広島支部同人は、巡回展が始まらなると正月が迎えられない。昭和31年より58回を数え、以来、絵画、彫刻、デザイン、写真の四部門の協力が伝統となっている。最近では地元出品者が多く（特に写真部は全国一）4部門で254人の大所帯。年末から年始にかけての会場準備が一大イベントとなっている。

今年は川内常務理事をお迎えして広島県立美術館でスタートした。本部理事との交流の機会が少ない地方同人にとって、直接作品批評を頂く良い機会となり、広島支部のみならず、近隣の岡山、愛媛の同人もオープン日に来場して大いに盛り上がったスタートとなった。

又、4部連携のイベントの試みとして、昨年まで絵画部で行ってきたギャラリートークを4部門のトークリレー形式で行い、来館者へ二科の特色をアピールでき、好評であった。途中天候に恵まれない日もあったが、来館者も例年並みの7,500余りを数え盛況であった。

二科100周年、広島巡回展も60周年を見据え、先輩諸氏が綿々と築き上げた歴史や思いを今一度見つめ直し、さらに盛り上がるべく決意を新たにしました。

【テープカット】

(主催者) 中国新聞社 事業出版センター長：多田倫彦
 (主催者) 公益社団法人二科会 常務理事：川内 悟
 (絵画部代表) 公益社団法人二科会 会員・広島支部長：高藤博行
 (彫刻部代表) 公益社団法人二科会 会 友：正司 強
 (デザイン部代表) 一般社団法人二科会デザイン部副理事長：縄田健次
 (写真部代表) 一般社団法人二科会写真部 理 事：徳永善彦



▲川内常務理事をお迎えして広島、岡山、愛媛合同の作品批評会。丁寧なお話に大いに感謝。川内先生、お疲れ様でした。



▲会場風景 トークリレー(彫刻)
来場者の質問に答える地元秋山会友



▲会場風景(絵画)
二段掛展示で来館者も首が大変そう



会場風景 トークリレー(写真) ▶
大勢のギャラリーに囲まれて作品解説する瀬野写真部支部長



▲会場風景 トークリレー(デザイン)
各部門の違いを説明するデザイン部縄田副理事長

第98回 二科展 巡回 [広島展] 懇親会



▲懇親会式典風景
公益社団法人二科会を代表してご挨拶をする川内先生



▲受賞式
後援賞の授与を行う高藤先生



▲懇親会風景
川内先生を囲んで歓談する絵画部同人

第98回二科展第58回広島展の懇親会は巡回展初日の1月7日(火)午後6時からホテルJALシティ広島で来賓、地元出品者約100名が参加して開催された。

まず総合司会の縄田デザイン部副理事長の開会宣言の後、高藤広島支部長の開会挨拶、主催者挨拶として(株)中国新聞社企画サービス 企画事業部長江口淳様のお言葉を頂き、授賞式に入った。

授賞式は後援賞と各部賞の授与が行われ、その後来賓を代表して、公益社団法人二科会常務理事 川内悟 先生、広島大学名誉教授 金田晋 先生からお祝辞を頂いた。

続いて、懇親会は一般社団法人二科会写真部徳永理事の乾杯の音頭で始まり、出品者同士やご来賓との歓談で楽しい時間を過ごした。又途中、各部の本展受賞者の紹介や受賞者の感想を聞き、参加者一同、次回への刺激となったことである。

最後に、写真部瀬野広島支部長の中締めで楽しい懇親会は終了した。

日時：平成26年1月7日(火) (午後6:00~8:00)
会場：ホテルJALシティ広島

■ご来賓

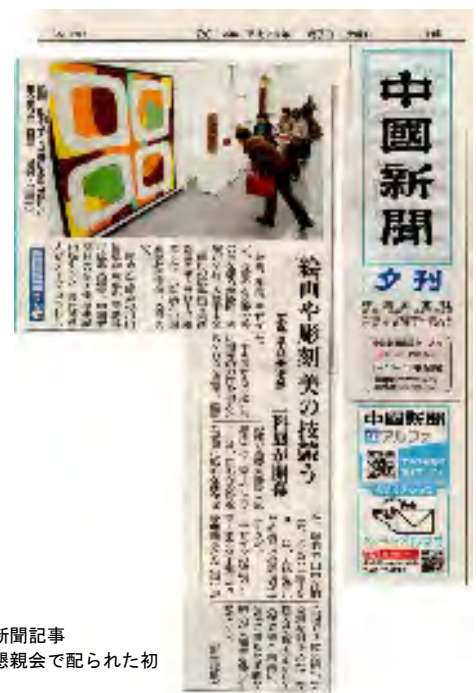
中国新聞社 企画サービス 企画事業部長：江口 淳
中国新聞社 企画サービス 企画事業部：青木 香澄
広島大学 名誉教授：金田 晋
インターネット美術館：原 敏昭
(株)ヒューマックス 常務取締役：川口 格

■巡回展後援賞

- 中国新聞社賞
天野ちづこ【デザイン】「A部門 自由テーマ・ポスター」
- 広島県知事賞
秋山 隆【彫刻】「あっちの夏」
- 広島市長賞
天野紀代子【絵画】「ファンタジー(浮遊)」
- 広島国際文化財団賞
林 正博【写真】「スズメの花」
- 広島市未来都市創造財団賞
山根 和子【絵画】「顔 part 4」
- 広島県教育委員会賞
後藤 優太【デザイン】「C部門 特別テーマ・ポスター」
- 広島市教育委員会賞
野路 育子【彫刻】「育つ」
- ひろしまインターネット美術館賞
津島 恵子【写真】「粉雪菓」



▲新聞記事
2日目(1月8日)朝刊



▲新聞記事
懇親会で配られた初

巡回展 立付作業 風景

正月早々開催の二科広島展は、立付作業が大仕事である。今年は1月6日(月)午後1時、広島支部同人約100人(4部)が美術館に集合。外には既に彩美堂のトラックが待機している。作業時間は午後8時までの7時間。高藤支部長の挨拶のあと、各部の立付責任者の作業手順の説明があり、直ちに作業に移る。

まず作品搬入と、会場造りである。搬入係が荷受けチェック、写真とデザイン会場は各部の男性同人が展示パネルの設営を行う。男性といっても年齢的には決して若者とは言えず、体力的にかなりハード。又、並行して各部が美術館より展示金物を借受確認をする。これまた作品数が多いので、借受金物の種類、数の照合作業も大仕事。

2時過ぎ、搬入口に地元彫刻部員のトラックが着く。彫刻巡回作品は巡回用の小さな作品であるが、広島では地元作家の本展作品を展示する為見ごたえがある。但し、会場への搬出入は自前。ご苦労様です。

4時、おおよそ展示の姿が見えてくる。中国新聞社の文化部記者が事前の取材に訪れ、高藤支部長が対応。入口では看板や二科懸垂幕などの飾り付け、販売コーナーでは女性同人が巡回作品の絵葉書のチェック作業。

5時30分、絵画部以外の展示が完了。ここで一般同人は解散。後は絵画部の係と彩美堂で、会場の最終確認、梱包箱の撤去、オープニングセレモニーの準備。6時過ぎ、彩美堂のトラックを見送り今回の立付作業は終了。

2年前までは、8時ギリギリまで作業が掛かったが、今年は1時間以上余裕を残し完了した。慣れもあろうが、担当者の入念な準備と各部の協力のお蔭と感謝する。ありがとうございました。(絵画部/高松 記)



▲作品搬入
搬入作業をする彩美堂と作品チェックをする金折、水野西原



▲作品配置
作品配置作業



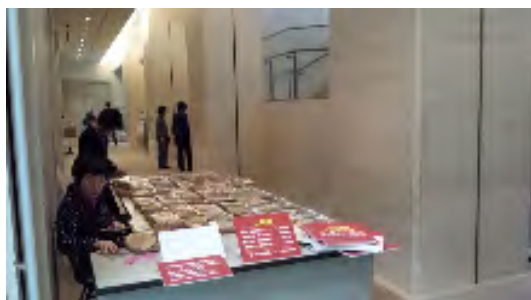
▲作品立付
ほぼ立付が出来た壁面をチェックする世木田会友と絵画部同人



▲会場入口飾付
看板と受付設営作業



▲作業前の作業手順説明
1時、作業手順を聞く写真部同人(美術館ロビーに)



▲販売コーナー
巡回作品絵葉書のを並べる女性同人



▲会場造りと作品搬入
展示パネルの設営と作品配置作業
(デザイン会場/美術館講堂)